

研究課題名	胸部レントゲン画像 AI による食道アカラシア診断
研究の意義・目的	<p>食道アカラシアは罹病期間が長くなるにつれて食道の拡張や蛇行が進行すると考えられています。食道の高度変形により経口内視鏡的筋層切開術などの治療が手技的に困難になったり、治療効果が減弱したりする可能性があり、早期の診断が望まれます。しかし、アカラシアの診断までに 10 年以上を要することも稀ではなく、早期診断は臨床において解決すべき課題です。</p> <p>診断にはまず上部消化管内視鏡検査が施行されることが多いですが、検査の侵襲性が高く、診断が難しこともあります。近年、食道アカラシアは胸部レントゲン写真で食道の拡張、食道内の液面形成など特徴的なサインが見られることが報告されています。近年人工知能（AI）による深層学習が画像診断に応用され、高い診断精度を達成するモデルが多数報告されています。そこで AI による胸部レントゲンの深層学習によって食道アカラシア診断モデルを確立できれば、検診などでの胸部レントゲンにおいて未だ診断されていない食道アカラシアを非侵襲的かつ早期に発見することが出来る可能性があります。</p> <p>食道アカラシアの診断のための胸部レントゲン画像 AI を構築し性能を検証することが、本研究の目的になります。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	<p>食道アカラシアの方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院で食道アカラシアと診断された方のうち、立位正面の胸部単純レントゲン写真を撮影されている方 <p>食道アカラシアではない方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院で上部消化管内視鏡検査を受けた方のうち、内視鏡で食道アカラシアに特徴的な所見がなく、かつ立位正面の胸部レントゲン写真の撮影歴のある方
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>下記の診療情報を収集します。</p> <p>年齢、性別、BMI、診断名、既往歴、前治療歴、症状出現から診断されるまでの期間、検査所見（症状に対する質問票、胸部レントゲン画像、上部消化管内視鏡検査、食道内圧測定検査、食道バリウム造影検査など）</p>
試料・情報の 提供を行う機関の 名称及びその長の 氏名 (提供元について)	該当しません。
提供する試料・ 情報の取得の方法	該当しません。
試料・ 情報を用いる研究に 係る研究責任者	研究責任者：大阪公立大学医学部附属病院 消化器内科 落合 正

<p>試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称</p>	<p>試料・情報を利用する者の範囲 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学、放射線診断学・IVR 学</p> <p>責任を有する者の研究機関の名称 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学</p>
<p>本研究の 利益相反</p>	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>研究に協力を したくない場合</p>	<p>診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。</p>
<p>連絡先</p>	<p>大阪公立大学医学部附属病院 消化器内科 担当者氏名：落合 正 住所：〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス：Koras_peace0@omu.ac.jp</p>